

## 委員会視察記録

委員会名	総務委員会
期間	令和4年10月18日～20日
参加者	委員長 野田 治久 副委員長 市川 秀之 副委員長 望月香世子 委員 藤曲 敬宏 委員 中谷多加二 委員 廣田 直美 委員 中澤 通訓 委員 蓮池 章平 委員 大石 健司
視察先	1 花の拠点はなふる、道と川の駅花ロードえにわ（恵庭市） 2 積丹ブルー蒸留所（積丹町） 3 石狩市役所 4 北海道庁 5 札幌フィルムコミッション（札幌市）

## 視察の概要

10月18日（火）

### ■ 花の拠点はなふる、道と川の駅花ロードえにわ

<概要>

「花の拠点はなふる」は、令和2年11月に恵庭市の進める花のまちづくりの拠点としてオープンした6haのガーデンエリアを含む市の施設である。様々な事業主体による各種イベントを行い「花のまちえにわ」を発信するとともに、花のまちづくりを支える人材を育成する場所として活用している。



<主な質疑応答>

Q 施設の管理運営形態は。

A 管理運営は市から民間団体に委託。来年度からの指定管理者制度導入を目指し準備している。

Q 整備前はどのような土地であったか。

A 民間所有の畑と市保健センターがあり、隣接する道・川の駅と合わせて一体的に整備した。

Q 市所有地の利用として、総合グラウンドの整備や商業施設の誘致は検討しなかったのか。

A 市の進める花のまちづくりプランの一環として公共施設で花を感じる場所の創出を考え、市民とワークショップ等を重ねて当施設の整備に至った。

Q 自分の庭を一般に公開するオープンガーデンを行っているのは何軒か。

A 施設に隣接する恵み野地区が盛んで約10軒が行っている。

10月19日(水)

## ■ 積丹ブルー蒸留所

<概要>

積丹ブルー蒸留所は、積丹町にあるジンの蒸留施設である。積丹半島の気候風土が育んだ樹木の実や香草植物を生かし、国内初のボタニカル栽培からジンの蒸留まで一貫して生産・販売を行う民間会社積丹スピリットを平成30年に設立、令和2年3月に当施設を建設し、民間主導の官民連携による新たな地域づくりを進める取組を推進している。



<主な質疑応答>

Q ジンの生産能力は。

A 500 ml約2万本が上限の生産能力で、この本数を販売できれば黒字になる。

Q 施設規模の拡大は計画しているか。

A ジンだけ売ればよいということではなく、これを契機に町の活性化につながることを目指しているため、施設の拡大は今のところ考えていない。

Q 積丹地域を示していない製品名「火の帆(ほのほ)」とした理由は。

A 積丹という狭い地域でなく、ブランドが地域を越えていくことを目標としており、あえて積丹を明確にイメージする製品名にしなかった。

## ■ 石狩市役所

<概要>

人事異動に伴う様々な課題解決のため、令和2年引継書等の作成にマニュアル作成・共有システム「Teachme Biz」の使用を開始し、人事異動に伴う職員間の円滑な引継ぎと知識共有等が図られ、今後は市民向けマニュアルにも順次導入することとしている。



<主な質疑応答>

Q 当該システムを選定した理由は。

A 同一様式で誰でも簡単に作成できる点を重視した。

Q 独自にシステム開発をしなかった理由は。

A 開発費用がかかること、軽微な仕様変更にもコストと時間がかかることから、既存のシステムを検討した。

Q 導入経費は。

A クラウド上の既存システムの使用であるため、初期費用はほぼかからない。維持管理費用として全体で月10万円程度。

Q 事務処理以外の地域の課題や年々続いているような懸案事項の引継ぎもこのシステムで作成しているのか。

A 全体の事務概要や懸案事項等はシステムではなく別途作成している。

## ■ 北海道庁

### <概要>

平成31年からICTを活用した業務改善の取組「スマート道庁」を展開。業務・組織風土・働き方の3つの改革実現を目指し、本年4月からは都道府県で初めて教員、警察を除く全ての道職員に業務用のスマートフォンを貸与し、スケジュール管理の電子化、テレワークやオンライン会議等多様な働き方を推進している。



### <主な質疑応答>

- Q テレワークでの業務や時間外勤務の管理・把握をどのように行うのか。  
A 職員がシステムを立ち上げると自動的に時間が記録される。またチャット等でリアルタイムに業務を確認することが可能。なおテレワーク中の職務専念義務の在り方については国の研究も含め今後検討する。
- Q 道民にとってのメリットは。  
A 行政手続のオンライン化や定例業務のRPA（ロボ化）等により、審査期間の短縮等サービス向上が図られると考える。
- Q 従前作成した紙媒体資料等の共有化についてはどうするのか。  
A 紙媒体資料も電子データ化し共有化すべきであるが、大量にあるため今後計画的に取り組む。

10月20日（木）

## ■ 札幌フィルムコミッション

### <概要>

札幌フィルムコミッションは、映画、テレビドラマ、CM等様々なロケーション撮影を札幌市に誘致し、補助金やボランティアエキストラ登録等を活用し撮影をスムーズに進める調整を行い、映像を通じて札幌市の魅力を国内外に発信し知名度や好感度を上げることで地域経済の発展を目指している。



### <主な質疑応答>

- Q 活動の財源は。  
A 札幌市から担当職員の人件費等で約1千万円の補助がある。撮影補助金は、フィルムコミッションが申請や審査等に協力し、札幌市が申請者に直接交付している。
- Q 補助金申請の審査内容は。  
A 札幌市のアピールになる内容かという点を重視するが、確実に上映や配信等が決まっていることが補助要件の一つにある。
- Q 誘致の実績は。  
A スポット的な撮影は多数、大型の映画やドラマについては年3～5件。
- Q 地域活性化に効果があった事例は。  
A 札幌で撮影したフィリピン映画のヒットにより観光客が増え、マニラー

新千歳の直行便が運航されるようになった。